

2023年度 港南台保育園 自己評価

今年度の3つの重点目標にどう取り組んだのか振り返ります



子どもが主体的に遊ぶ 保育環境づくり

目の前の子どもの姿から「これがおもしろい!」「もっとこうしたい!」という思い・願いを感じ取り、それをもとに遊びの環境をつくることに力を入れました。

あくまでスタートは「子ども」。保育士の思いばかりが先行しないよう、「遊びのワーク」(写真右)を囲んでクラス内で話し合いをし、環境構成や活動、保育士の関わり等、保育計画として位置付けました。そしてその計画や実践は、毎月カリキュラム会議の中で共有し、クラスを越えて振り返りをしました。

職員からは「子ども目線で考えられるようになった」「ごっこ遊びを楽しむ姿に手ごたえを感じた」といった声があがったほか、保護者アンケートの遊びに関する問でも9割を超える方から「十分できている・おおむねできている」と回答をいただき、成果を感じました。

また、今年度は職員の保育力の向上のため外部講師による「わらべうた遊び(0-3歳児クラス)」を年4回行いました。これをきっかけに柔らかな歌声のわらべうたに合わせて保育士と子どもたち、あるいは子どもたち同士がふれあって遊ぶ姿が多く見られるようになり、この取り組みが人とのつながりや心の安定に成果があったと感じています。

子どもたちが主体的に遊び生活できる保育園であることは永遠のテーマです。次年度もこれらの取り組みを続けていきます。



異年齢活動・地域との交流の再開

コロナ禍で休止していた異年齢活動、施設開放、地域との交流活動を再開し、子どもたちの経験を広げることを目標にしました。

幼児クラスでは年間計画をたてて異年齢活動を再開、年長児の頼もしい姿や、年中・少児が刺激を受けて頑張る姿に成果が感じられました。

年長児は他園の年長児とのお手紙交換や公園での交流活動を年数回行い、名前を覚えて遊ぶなど、就学に向けて関わりを広げることができました。

園庭開放や泥んこ遊びには近隣の親子や小規模園の園児が来て、一緒に遊ぶことができました。地域の子育て支援の一助になったと考えています。

次年度は園庭がないため、園児が外に出かける機会がより一層増えます。そのことをきっかけに新しい地域とのつながりを作りたいと考えています。



あそびのワークによる保育計画



職員全員で振り返り



子どもの安心と安全を支える 職員の協働



子どもたちが安心して安全に生活できるよう、今年度は「散歩」「不審者対応」にスポットをあて、マニュアルや訓練の見直しをすすめました。

特に「散歩」については改築工事が始まると頻度が増えることが予想されたことから、ルートや公園設備について写真と注意点を載せた「お散歩マップ」を再編集しました(写真右下)安全について職員の意識づけにつながったと考えています。

「不審者対応」については、訓練の仕方を見直したことで職員の理解がすすんだ成果はありましたが、訓練している以外にも様々な状況が想定されることから、マニュアルの改訂も含め次年度も継続して取り組むことにしました。

そのほか、ヒヤリハット管理、園庭環境整備など、クラスを越えた役割分担を通して、互いに意見を出し合える職場づくりをすすめました。

また、子どもの「安心」のために人権尊重について考えることにも重点をおき、法人全体で行った「人権研修」をきっかけにプライバシー保護の観点から育児行為でいくつかの見直しをするなどしました。担当外クラスの保育を見学し、気づいたこと、よいと感じたことを伝えあう園内研修も行いました。

今後も、子どもも大人もありのままを認められ、安心して生活することを大切にしていきたいと思えます

お散歩マップ



《その他…》

今年度は業務支援アプリ「コドモン」を導入。業務の効率化を図りつつ、保護者の利便性を高め、連携をより密にすることに力を入れました。幼児クラスはドキュメンテーションを毎日配信し「子どもたちの様子を家でゆっくり見られるようになった」と好評でした。乳児クラスの連絡帳もアプリにしたことで「記入が楽になった」「時間のやりくりがしやすくなった」と感想をいただきました。

便利なツールを活用しつつ、直接のコミュニケーションもより一層深めていけるよう、職員の資質向上に努めていきたいと思えます。

